

佐々木一也プロフィール (2023年5月19日 RSSC 同窓会講演者紹介用)

1954年(昭和29年)長野市生まれ。東京調布市育ち。東京大学文学部哲学専修卒、同大学院哲学専攻博士課程単位取得退学。千葉工業大学、中央大学、放送大学での非常勤講師を経て、1989年(平成元年)立教大学一般教育部専任講師に着任。以後、同助教授を経て立教大学の組織改編に伴い文学部教育学科に異動。1999年教授。さらに文学部組織改編に伴い2006年に文学部文芸・思想専修を新たに立ち上げ、そこへ異動。その間、1998年に文学研究科比較文明学専攻修士課程、2000年には同専攻博士課程を新たに立ち上げ、担当者となる。これらの組織改変に際しては中心的役割を担い、立教文学部の新しい人間学を再創造しようとする可能性を拓く運動を中心となって牽引。大学全体への貢献としては全学共通カリキュラム(略称「全カリ」、現在の全学共通科目)が挙げられる。1994年から1998年の全カリ立ち上げ時に、全カリ総合科目の理念とカリキュラム、そして組織の構築の実務を担う。その後も一貫して新座キャンパスを含め毎年全カリ科目の充実に協力。2014年から2018年には全学共通カリキュラム運営センター部長(全学共通科目全体の運営責任者)を務める。2020年(令和2年)3月、31年間勤務した立教大学を定年退職。名誉教授となる。そして、同年4月から立教セカンドステージ大学を担当することになって現在に至る。今年で4年目。

研究では、専門分野は哲学。ドイツの近現代哲学、特に、ハイデガー、ガダマーの現象学、解釈学や存在論の理論を中心に学びながら、日欧の違いを意識して、東洋の伝統思想や西田幾多郎などの日本近代哲学者の思想などを参考にして、日本の伝統に根ざした普遍的世界像を模索している。欧米の特定思想家の解説や特定理論に関する論評のような書物は世にたくさん出ているので敢えて書くことをしなかったために、単著はまだない。むしろ学部や大学院での講義やゼミでの学生たちとの討議に自分の研究成果を投入してきた。これまで各方面に断片的に発表してきた論文を総合して最終的に体系的思想としてまとめる事をライフワークとしており、残された私のセカンドステージでそれを形にするのが現在の生きる目標になっている。

私の哲学のキーワードは「存在と虚無の均衡」。本日の講演とも遠いところで繋がっている。

以上